

# 「ドイツの教育制度」 グループ向け講演会

日鉄住金総研

日鉄住金総研(川合良彦社長)は17日、東京都千代田区の日本倶楽部大会議室で、新日鉄住金およびグループ企業向けに講演会を開催し、約30人が出席した。

同講演会は2014年から、社内外の講師を招いて毎月実施している。今回は山藤康夫・日鉄住金総研客員研究主幹が、「モノづくり人材育成・教育に関する世界の潮流について」企業の必要とする教育を目指すドイツ語圏」のテーマで講演した。

山藤氏は、デュアルシステムなどドイツの教育制度を紹介した。ドイツでは多様な進路パターンがあり、デュアルシステムでは学校の座学だけでなく、義務教育の一環として、企業が学生に職業訓練を実施することで、学習や仕事に対するモチ



スタディの  
大学は大学  
教育と企業  
実習を反復  
しているこ  
とに触れ、  
講演する山藤氏  
「日本は企

ベーションを高めるとともに、就業における責任感を持たせるメリットがあると説明。

また、ギムナジウム(進学コース)は実験を主体に教育し、その先の大学の中で応用科学大学では実践的な力を発揮し、デュアル・

## 全社JK大会 8チーム発表

日鉄住金溶接工業

日鉄住金溶接工業はこのほど、第13回全社JK(自主管理活動)大会を千葉工場習志野地区で開催し、各地区から選抜された8チーム約70人と、木村寛社長以下役員、幹部らが出席した。写真は、大会は、「日常業務の改善研究を通してその自己実現・能力伸長・グループ活動による相互啓発を図り、社業の絶え間ない発展に貢献すること」を目的に、同社が発足した翌年の2003年から毎年3月に開催している。

今年には習志野地区19チームから3チーム、

業二ースに即した教育を行い、1-2週間のインターンシップを、半年から1年間に期間を延ばすべき。また資格と体験を重視し、高等専門学校をもっと評価し、工業高校を盛り立てていく必要がある」と提言した。

柏地区7チームから2チーム、光工場18チームから3チームが選ばれ、取り組みによる成果を発表。各発表後には会場から質問やアドバイスの声が上がリ、活発な応答が交わされた。審査の結果、習志

## 東ル手打ちそ

関スチ  
新入社員  
5人参加  
近

関東スチール(本社)茨城県土浦市、家城(家城社長)は17日、近

